

第5回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 会議録

1. 開催日時 令和7年10月30日（木） 15時00分～16時50分

2. 会 場 軽井沢高等学校 多目的室

3. 出席者 委員：荒井 英治郎委員、三和 秀平委員、西郷 孝彦委員、
飯澤 幸世委員、西野 博之委員、岡田 敏之委員、
一色 保典委員、唐沢 浩一氏（代理）、臼田 瑞希氏（代理）、
本城 慎之介委員、上原 浩子委員、山崎 伸一委員、
久保 貴史委員、諸星 ひとみ委員、岩崎 ひとみ委員
事務局：宮本 隆教育長、内堀 繁利アドバイザー、岩井 和成課長、
金井 章宏課長補佐、金井 拓也係長、
学校教育係職員 小林 真理、堀本 淳子
軽井沢高校・教育魅力化推進係職員 根津 彩香、桐野 耕介

4. 議 題 （1）第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議
のまとめ
（2）「私たちの学校」をつくるワークショップについて
（3）設置場所・スクールコンセプト・スクールデザインについて
（日課、教育課程、学習空間デザイン）
（4）夜間中学について
（5）その他

5. 傍聴人数 19名

6. 議事内容

● 1. 開 会

【岩井こども教育課長】

定刻となりましたので、ただいまより第5回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を開催いたします。

軽井沢町教育委員会こども教育課長の岩井です。よろしくお願いいたします。

本日の会議は、ここ軽井沢高等学校にて開催といたしました。

改めまして、上原校長先生（委員）におかれましてはご理解とご協力を頂きましたこと、お礼申し上げます。

以降は、着座にて失礼します。

会議に先立ちまして事務局よりお願いがございます。

これまでの会議と同様に、対面及びオンラインの併用とさせていただき、原則として、事業名にもあるとおり「オープン」＝「公開」とさせていただきます。

また、傍聴者、メディア等の関係者もおられますが、途中での入退場を含め自由とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

この会議は事務局において録音・撮影を行い、後日、議事録の形で町のホームページに掲載させていただきますので、重ねてご了承ください。

なお、傍聴人の方で、写真等 NG の方は事務局までご連絡ください。

● 2. 教育長挨拶

【岩井こども教育課長】

それでは次第により進めさせていただきます。

初めに、軽井沢町教育委員会教育長であります宮本隆より挨拶申し上げます。

【宮本教育長】

皆様こんにちは。教育長の宮本でございます。

本日は多くの委員の皆様方、本当にご多忙な中、ご参加いただきましてありがとうございます。

またオンラインでの参加ありがとうございました。

さて、9月22日開催されましたフォーラムでは、委員の皆様や多くの参加者の皆さんから、様々なご意見を頂きました。

フォーラム第1部のクロストークにつきましては、すでに町ホームページで動画にて公開しておりますので、必要に応じてご覧いただければと存じます。

また、フォーラム第2部のワークショップでの話し合いの内容や様子については、本日の次第の中にありますように、お示しして概要としてご報告させていただきます。

さらに、夜間中学に関する取組について、今までの取組や状況について中間報告させていただきます。

今回は、軽井沢オープンドアスクール（仮称）の設置に向けて、今までお示していたスクールコンセプトより、さらに一段と具体的な姿についてご意見を頂ければと思います。

内容としては学校の「日課」や「教育課程」、「学習空間デザイン」についてです。

あくまでも最初の案ですので、今後頂いたご意見等からバージョンアップさせていただきたいと思っています。

本日も、様々側面からご意見を頂戴いただけますようお願いいたします。

以上でございます。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

● 3. 座長挨拶

【岩井こども教育課長】

続きまして、荒井座長より挨拶をお願いいたします。

【荒井座長】

皆さんこんにちは。

座長の荒井でございます。

今日もよろしくお願いします。

本日の会場は、軽井沢高校ということで、会場の設営や駐車場の誘導等、職員の皆さん、本当にありがとうございます。

先ほど教育長からお話がありました通り、今回は、教育課程のたたき台が示されています。

標準授業時数の1,015時間に対して、学びの多様化学校は770時間程度、夜間中学は700時間程度という、目安が示されています。

さらに、教科名とか、そこでイメージされる事柄が出ていますので、ぜひ皆さん忌憚のないご意見いただけたらと思いますし、今回傍聴の方もたくさんいらっしゃいますので、地域の方々に見守られながらプロジェクトを進めていく必要がありますので、ぜひ関わっていただきたいと思っています。

今日も時間が限られていますけども、よろしくお願いします。

私から以上です。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

本日の会議は、本田委員、木村委員、福本委員及び今村委員から欠席のご連絡をいただいております。

また、長野県教育委員会 義務教育課 藤木課長様の代理出席といたしまして、唐沢主幹指導主事、同じく長野県教育委員会 心の支援課 向井課長様の代理出席といたしまして臼田主任指導主事のご参加をいただいております。

また、一色委員は、オンラインでのご参加となります。

● 4. 議 事

(1) 第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ

【岩井こども教育課長】

それでは議題に移ります。

これより先は、設置準備会議要綱第4条第2項により、荒井座長におきまして進行をお願いいたします。

【荒井座長】

よろしくお願いします。

では、お配りさせていただいた次第の、議題の部分をご覧ください。

今回、5点用意をしております。

(1) から進めさせていただきます。

第4回、前回の軽井沢オープンスクール（仮称）設置準備会議のまとめということで【資料1】をご覧ください。

事務局から説明をお願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい。事務局の金井です。

説明させていただきます。

お手元の2ページ目、【資料1】をお願いいたします。

第4回軽井沢オープンドアスクール(仮称)設置準備会議まとめになります。

日時：令和7年9月22日（月）15時30分から17時00分

会場：軽井沢町中央公民館

出席者、欠席者、事務局等については記載のとおりでございます。

会議事項：(1) 第3回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ、(2) 「私たちの学校」をつくるアンケートについて（保護者分）、(3) 「私たちの学校」をつくるワークショップについて、(4) 設置場所について、(5) スクールコンセプトについて、(6) その他ということで皆様にご意見をいただきました。

当日いただいた意見・質問については、記載のとおりでございます。

本日、第5回目の会議ということで、軽井沢高等学校での開催となります。

簡単ではございますが、説明は以上になります。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

前回の会議のまとめということで、皆様ご発言の趣旨等間違えていないか確認をいただき、何かありましたら、ここで言っていただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

ちょうど本日、午前中に軽井沢町の教育支援センターの方に私、お邪魔させていただいておりまして、子どもたちやスタッフの方から少しお話を聞いてきたというふうなところもあります。

また機会があればご報告差し上げたいと思います。

●（２）「私たちの学校」をつくるワークショップについて

【荒井座長】

それでは（２）にいきます。

前回、この会議の前に開催しました「私たちの学校」づくりフォーラムも含め、ワークショップについて、【資料２－１】をご覧ください。

事務局から説明をお願いします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係員】

はい、お願いします。

事務局の根津です。

４ページの【資料２－１】をご覧ください。

「私たちの学校」をつくるワークショップについて、こちらのもの（資料）が最新の一覧となります。

このうち、第４回設置準備会議以降の動きについて、ご説明いたします。

まず学校内では、東部小学校で１１月１１日にアンケートを実施した４～６年生の縦割り班でワークショップを実施する予定です。

また、軽井沢中学校では１２月中旬に、２回目のワークショップを実施する予定です。

学校外では、※印で枠外に示した方を対象に、２学期中に新たにワークショップを実施する予定です。

９月２２日に実施した「私たちの学校」づくり軽井沢フォーラム２０２５の第２部ワークショップで、参加者の皆様から多くのご意見をいただきました。

こちらについての詳細は後ほどご説明いたします。

上記のワークショップで出た意見等につきましては、１月の設置準備会議にてまとめて報告させていただく予定です。

さらに、表の下枠内になりますけれども、『「私たちの学校」をつくるアンケート』結果を踏まえた実践が、中部小学校で１０月６日に実施されました。

現在、『「私たちの学校」をつくるアンケート』の結果をどのように反映していくか、各学校と教育委員会とで検討を進めているところではありますが、既にこのように具体的に実施されているものもございます。

こちらについても詳細は後ほどご説明いたします。

今後のワークショップについては、ご都合がつきましたら、委員の皆様にもご参加いただき、児童生徒の生の声を聞いていただくことも考えております。

日程については早めにお伝えしますので、可能であれば、ご協力いただけますと幸いです。以上で、【資料２－１】についての説明を終わりにします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

続きまして【資料２－２】、次のページをお願いいたします。

９月２２日のワークショップでいただいたご意見について説明をさせていただきたいと思えます。

「私たちの学校」づくり軽井沢フォーラム 2025 第２部ワークショップ記録という資料になります。

時間の都合上、それぞれのグループで出されたご意見の詳細な説明は割愛させていただければと思います。

多くのグループで共通して出されたご意見や、各グループでの話し合いの流れの中で出されました、他のグループにはないご意見のみに絞って、説明をさせていただければと思います。

当日は、町内外問わず 54 名の皆様にご参加をいただきました。

ありがとうございました。

ご参加いただいた方を 8 グループに分けさせていただきまして、それぞれのグループでのワークショップを展開いたしました。

そのなかで、多くのグループで共通して出された意見が大きく 4 点ございました。

まず、その 4 点を説明させていただければと思います。

まず 1 点目は、「1 人の教員が、児童生徒の対応や悩みを抱え込まずに、教職員同士や保護者、高校生そして地域住民等との連携が必要である」といったご意見がございました。

2 点目は、「学校でこれまで当たり前とされてきた部分、いわゆる、固定観念を見直すべきである」というご意見がございました。

3 点目は、「児童生徒のやりたい、好きという気持ちを大切にした教育活動が行われると良い」というようなご意見をいただきました。

最後、4 点目なんですけれども、評価についてです。

「評価ありきではない学びができると良い」というご意見や、「評価制度があることによって、児童生徒が自由に学べず、教師や保護者も評価しなければいけないという意識が強くなり児童生徒の行動を待つことが難しくなっている」というご意見、そして、「軽井沢オープンドアスクール（仮称）の評価をどのように行うか」というご意見が出されました。

これらの点につきましては、既存校やオープンドアスクールのあり方を考える中で、各学校および教育委員会で既に検討を始めているものもございます。

今回いただきましたご意見も踏まえて、引き続き検討してまいります。

続いて、その他のご意見についてです。

資料5ページを引き続きお願いします。

まず、グループAでは、安全・安心で楽しく学ぶ学校づくりや、困る子どもを1人もつからない学校について話し合われました。

そのなかで、「受験のための学びではない学びができるよう、高校入試制度の改革が行われるべきである」というご意見が出されました。

続きまして、6ページをお願いいたします。

グループBでのご意見です。

学校がどのような場所であればよいか、どうしたら子どもたちにとって安心できる、心を開ける環境になるか、ということについて話し合われました。

そのなかで、「学校を居場所か学びの場所かのどちらにするかという議論をするのではなくて、児童生徒にとって居場所と学びの場の両方を兼ね備えたものである必要があるのではないか」というようなご意見が出されました。

次に9ページをお願いいたします。

グループCでのご意見です。

一人ひとりが自分で考える環境、どんな学校だったらしやすいか、自分のペースで学ぶこと、困っている子どもをつくらないようにするための方法等について、アンケート結果も踏まえて話し合われました。

そのなかで、「オープンドアスクールは定員が設けられており、既存校で検討されるべき事柄も多くあるため、オープンドアスクールと既存校両方の魅力化を進めていくことが大切である」というご意見が出されました。

続きまして、11ページをお願いいたします。

グループDでの意見です。

県内の各小学校の先進事例が共有され、それらをもとに話し合いが行われました。

そのなかで、「学校の管理職が新しい取り組みを促進しやすい環境づくりを行うこと」や、「活動に取り組む児童生徒を支えるなかで教職員が児童生徒を信頼したり、伝え方を考えたりすることの重要性」についてのご意見が出されました。

続きまして、13ページをお願いいたします。

グループEでのご意見です。

探究的な活動や評価のあり方について主に話し合われました。

そのなかで、「学校が探究的な活動を担うべきなのか、学校以外の場所で行われることも有効ではないか」というようなご意見をいただきました。

次に 17 ページをお願いいたします。

グループFでのご意見です。

先進事例の導入のあり方や評価のあり方について主に話し合われました。

そのなかで、「お互いの良さやアイデアをシェアし合えるような環境がつかれると良い」というご意見が出されました。

続きまして、19 ページをお願いいたします。

グループGでのご意見です。

幼児教育や児童生徒を支える環境づくり、LDの児童生徒への配慮や対応、専門家の配置について主に話し合われました。

そのなかで、「支援が得意な教職員だけが支援できる体制ではなく、より多くの教職員がLDの児童生徒を支援できるような教材の活用方法や指導方法の周知・研修が必要である」というご意見が出されました。

次に 22 ページをお願いいたします。

グループHでのご意見です。

多様性についてや、海外の教育と日本の教育の比較から主に話し合いが行われました。

そのなかで、「学習だけでなく、表現力や自分の考えを伝える力など、社会に出たときに使う、生きる力を身につけることができる」というような意見が出されました。

これらの点につきましても、既存校やオープンドアスクールのあり方を考える中で、今回いただいたご意見も踏まえて、今後協議していく必要があると考えております。

申し訳ございません。ざっとですが、以上で【資料2－2】についての説明を終わりにします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係員】

それでは、続けて資料の 25 ページ【資料2－3】をご覧くださいと思います。

先ほども申しました、『「私たちの学校」をつくるアンケート』結果を踏まえた実践について、軽井沢中部小学校での取り組みを、「私たちの学校」づくり経過報告という形で報告させていただきます。

まず、1 実施概要（1）経緯についてです。

中部小学校では、アンケート結果をどのように学校生活に反映させていきたいかについて、教職員はもちろん、児童自身にも考えてもらいたいという学校長の願いがありました。

そこで、児童会役員と校長とでランチミーティングを実施し、検討したところ、「新しいイベントや、みんなが笑顔でいられるイベントが欲しい」という意見が多くアンケートで出されたことを踏まえて、児童会役員が開校 70 周年記念イベントの一環として企画し、実施することとなりました。

（2）実施日から、（4）内容については資料をご覧ください。

（5）進行方法についてですが、導入からまとめの部分まで、全て児童会役員が進行を行いました。

2 今後に向けての部分に関してですが、今回のように、児童会の役員が 1 から企画を立案し、運営するということは、中部小学校で初めての試みだったそうです。

この企画を終えて、参加した児童生徒からは、「楽しかった」という感想が多数寄せられた一方で、児童会役員からは、「良い経験になったものの、全校が一丸となって企画を運営することの難しさを痛感している。また、うまくいかなかった点が多く悔しい」という意見も出されているそうです。

今後は、ランチミーティングを継続して、今回のイベントの振り返りを行いながら、新たなイベントやワークショップについて計画していくとのことですが、具体的に 11 月下旬に児童会祭が予定されております。

そこで、今回の企画の反省を踏まえた運営を行いたいという児童会役員の強い意欲があり、現在準備にあたっていると聞いております。

ここまでが、中部小学校で実施された企画の説明となります。

以上で、「私たちの学校」をつくるワークショップについての説明を終わりにします。

ありがとうございました。

【荒井座長】

ありがとうございました。

【資料 2－2】を中心に説明をいただきました。

この間、皆さまにご協力をいただきながら、様々な学校で子どもたちにとってオーナーシップを感じられるような取り組みが、少しずつ進められています。

フォーラムには多くの参加があり、まとめるのも大変だったかと思いますが、一言一句しっかりと読ませていただいております。

ぜひこれを踏まえた形で、具現化を図っていきたいと思いますが、他方でまだまだ学校側の

取り組みが理解されていない部分も少なからずあるとも感じました。

最後の、中部小学校の取組については、子どもたちが企画したという点で感銘を受けました。
ぜひ、次のご報告もいただきたいと思います。
ありがとうございます。

では、今ご説明いただきました「私たちの学校」をつくるワークショップについて、主に【資料2－2】になりますけれども、皆様のご質問やご感想、ご意見等いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

今後もこの種のワークショップが継続して行われるということで、委員の皆様、あるいは、一般公開できるようなものもあれば、ぜひ足を運んでいただいて、その様子をご覧いただけたらと思います。

●（３）設置場所・スクールコンセプト・スクールデザインについて

【荒井座長】

続きまして、（３）の方に参ります。

設置場所、スクールコンセプト、そして、スクールデザインについて、【資料３】を中心に説明いただきたいと思います。

よろしくお願いします。

【宮本教育長】

はい。それでは、（３）設置場所・スクールコンセプト・スクールデザインについてですが、私の方から説明させていただきたいと思います。

設置するオープンドアスクールについて、より具体的なイメージを持っていただくために、このところ（【資料３－１】～【資料３－７】）は、一括して説明した方が良いと思いますので、説明が若干長くなりますけれどもご承知いただければと思います。

よろしくお願いいたします。

それでは、まず、設置場所からですが、【資料３－１】をご覧くださいと思います。これは、前回お示しした資料になります。

事務局として、前回、軽井沢高校で（設置を検討している）というお話をしました。

そのなかで、様々なご意見をいただきました。

その意見の中で、不登校あるいは不登校傾向の生徒さんが「学校」に行くというのはちょっと違和感があるというような懸念の声をいただきました。

そういった懸念というのは、そこに通う最初の段階にあるものだと考えています。

不登校のきっかけといったものは、お子さんによって様々であるので一概には言えませんが、今までの議論の中で、学校の空気感といいますか、その雰囲気ということで、行きにくかった学校の空気を言い表す言葉として「刑務所」というような言葉もあったように、要は、ソフト面というか、先生方の学校文化みたいなものが非常に問題になっているという側面もあるというふうに考えています。

学校の建物自体、構造物が子どもの心の障害になっているというような側面もちろんあるかもしれませんが、その部分ではない側面もあるのではないかと考えています。

そうは言っても、最初に学校（オープンドアスクール）を作るときに、オープンドアスクールの雰囲気というものがまだ十分でないわけですから、それ（オープンドアスクールらしい雰囲気）を伝えるということはなかなか難しいという部分はありますが、徐々に徐々にそういったオープンドアスクールの中で行われている活動というようなものをできるだけ伝えること

によって、その（学校という場所へ通うという）ハードルをだんだん下げられるのではないかと
いうふうに考えています。

しかし、学校の中にあるということ、そういった懸念があるということは事務局としても
認識しているところであります。

今、入学といいますか、入ってくるというところの部分に焦点を当てましたけども、その後、
そこでどんな学びが行われているのかという側面、つまり、中学校生活といった側面で考えま
すと、高校に設置するメリットというのは非常に大きいと事務局としては考えています。

例えば、教科の授業をどういう活動にするのかということで、今までの一方的な先生の授業
ではもちろんないわけですが、教科の授業を必ずしなければいけないし、やっていくと
いうなかで、あるいはこの後示しますけども、探究活動や総合的な学習の時間というものがあり
ますけども、そういった活動をしていく場合に、施設が十分整っているということは、お
子さんたちの学びにとって非常に大きなメリットがあるのではないかとというふうに思ってい
ます。

高校施設をお借りするということで、例えば、理科の実験とか、あるいは家庭科、音楽、
美術という授業も、基本的には環境的にいつでもできるというものがあると。

それから、同じ敷地内にある学校ですので、高校と中学校なんですけども、そこにはおのず
と、交流とか連携というものが生まれてくるのではないかと考えています。

もちろん、それを最初から意図するわけではありませんけれども、そういった交流とかとい
うもの、要は、よく言いますように、先生と親と子どもの関係のような縦の関係と、それに対
して同級生の横の関係と、こういったもののみならず、もしかしたら年上のお兄さんやお姉さ
んとの関係という斜めの関係性もそこから生まれてくるかもしれないと考えています。

元々、そういった関係性というのはオープンドアスクールというものの理念の中にあったと
いうことをまた後でお話しますが、「学齢期に限らない、異年齢集団での学び」、これが
元々のオープンドアスクールの理念の中にあります。

したがって、その理念を実現するために、この斜めの関係性というもの、これをさらに補完
する意味でも、高校にある意味というのはあるのではないかとというふうに考えています。

こういった、学びの中においてという部分で、その後の進路の保障という面、要は卒業後と
いう面なんですけども、同じ敷地内に高校と中学があるということを活用するというので、町
としては、将来的には中高一貫校を視野に入れていきたいというふうに考えております。

中高一貫というのはいろいろな形があるので、ここでちょっとお時間いただいてご説明させ
ていただきますけれども、中高一貫には3つの形態がございます。

1つ目が中等教育学校です。

これは、1つの学校として中高一貫教育を行うということでもあります。

2つ目が、併設型の中学校高等学校です。

これは、高校入学選抜を行わず、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するというものであります。

一般的に、中高一貫というのはこの形を示すことが多いんですけども、長野県には県立高校で2校、長野市立1校、私立も何校かあります。

それと3つ目が、連携型の中学校高等学校です。

これが、設置者が異なっても実施可能であるというようなもので、中学校と高校が、教育課程や教員、生徒間の交流・連携を深める形の中高一貫教育というもので、これは長野県内にまだございません。

このような形のなかで、町の方の考えですけれども、連携型の中高一貫校というものを将来的に考えていきたいということでもあります。

この連携型であれば、一般に高校入学、高校入試というものに使う調査書、あるいは学力検査、こういったものを用いなくても良いということのメリットがあります。

もしもこのような学校形態になれば、進路保障という面では、ある程度保障できるのではないかと考えています。

もちろんそうなったとしても、軽井沢高校に行くという選択肢だけではなくて、他の学校にも行けるわけですけれども、1つ新たな形（選択肢）ができるのではないかと考えています。

さらに、そういう形であれば、中学校の学びもさらに充実することができるということで、要は高校への繋がりということで、例えば今、町では、軽井沢の自然とか文化とか人材等を活用して行う「軽井沢学」というものが小中高にあるんですけども、そういったものの連携を取りながら、その連続性とか、接続性を意識した教育課程をすることができるということで、学びの中にも大きなメリットがあるのではないかと考えています。

これはあくまでも町側の希望です。

相手方がいることなので、あくまでも町教育委員会の希望ということで、ご承知いただければと思います。

同じように、進路選択とか出口保障という面で、高校と同じ敷地にあるというのは他にもメリットがあります。

具体的には、オープンドアスクールの先生方や管理職、あるいは高校の先生方が近くにいるわけですから、進路保障ということで他の高校の情報とか、あるいは進学の情報というもののコミュニケーションを非常に密に取ることができて、そういった情報も非常に多く入ってくるということで、他の高校への道筋というものをどう考えるかという面でも、大変メリットがあるというふうに考えております。

こういった形で、連携型の中高一貫を目指していきたいと事務局としては思っています。
こういった形で、積極的に軽井沢高校に設置したいという側面のことをお話させていただきました。

それでは、具体的にその学校の内容についてなんですけれども、スクールコンセプトについてお話す前に、【資料３－２】をご覧ください。

今までいただいた意見の中で、スクールコンセプトに関わってという部分で、赤字で示したところが、前回の会議でいただいたスクールコンセプトに関する意見です。

例えば、27 ページの資料では、真ん中辺りにある「軽井沢中学校の分校という形であれば、本校の理念を引き継ぐのか」ということに対して、「基本的な理念や教育課程が必ずしも本校と同じではないので、理念についても違ってくるのではないか」と考えています。

そして、下から２つ目のコンセプトの言い方ということで、「学齢経過者のうち、さまざまな理由によって、小中学校で十分に学ぶことができなかった方」というふうに検討いただきたいということなので、その表記は変えさせていただいております。

それと、28 ページのところでは、設置場所について、様々なご意見をいただきましたが、今、私の方で申し上げたようなメリットを町としては考えているということで書かせていただいております。

あと、設置場所の下の方の３つの質問で、場所についてのご心配等が書いてありますけれども、後で見ていただきますが、北校舎というのが独立してありますので、そちらの方の大部分を利用・活用していく予定です。

それと、子どもたちの声を聞きながら必要な環境整備や、場合によっては開校後も改修も行っていきたいというふうに考えています。予算（の枠）もありますが、基本的には子どもたちの使い勝手がいいような形に変えていきたいというふうに思っています。

ちょっと飛びまして 32 ページの【資料３－４】をご覧ください。

前回示したスクールコンセプトを、いただいた意見により「２ 対象生徒」の表記を変え、赤字で書いてあるものです。こんなふうにスクールコンセプトを考えていきたいということで、若干変えてあります。

これがスクールコンセプトなんですけれども、続いて資料がありますので、ご説明いたします。

続いてですね、【資料３－５】をお願いいたします。

設置しようとしている軽井沢オープンドアスクール（仮称）の、子どもの活動時間はどんな感じなのかというのをそこに示してあります。

見ていただくと、「学びの多様化学校コース」と、「夜間中学コース」と書いてあります。

これは、基本的にはフレキシブルにいけるという意味で、学びの多様化学校対象の学齢期の

子どもも、夜間の方でも学ぶことができるし、その逆もあり得るという考えで、コースというふうに名付けてあります。

それと、見ていただいたときに、濃い緑色で書いてあるところが、学びの多様化学校では1，2，3，4時間目、夜間中学の方は3，4，5，6時間目と書いてあります。

特に、学びの多様化学校コースの方については、遅い時間なんじゃないかと感じられる方も多いと思います。

学びの多様化学校コースの1時間目は15時45分開始ですので、「遅いよね、なんで」というご意見もあると思いますけども、これは、学びの多様化学校コースと夜間中学コースの3，4時間目を重ねてあることが理由です。

軽井沢オープンダースクール（仮称）の理念のもとには、信州オープンダースクール（仮称）の理念というものがあります。そちらをもう一度再確認させていただきたいと思います。

資料が戻りますけれども、31ページの【資料3－3】をご覧くださいと思います。

この資料は何の資料かと言いますと、右上に「第1,114回長野県教育委員会定例会資料より」とありますが、令和5年度の最後、令和6年3月26日の県教育委員会定例会で出された資料です。

要は、真ん中から下にありますように、令和6年度に信州オープンダースクール（仮称）創造会議を設置するというもので、この会議も荒井先生が座長をやられていたもので、軽井沢町も令和6年度、全部参加させていただきました。

この資料の真ん中から上の方に、「夜間中学と学びの多様化学校との併設も含め、」ということで、「併設」というふうに載っています。

それともう1つ、その下の信州オープンダースクール（仮称）創造会議の中の【設置目的】に○で、「年齢、国籍、社会的立場などに関係なく、誰にでも開かれ、多様な人たちが共に学び、共に成長する」ということと、【主な議題】の中の2つ目の○「学習環境・教育課程のあり方について」のところの1つ目の・で、「異年齢集団（学齢経過者と学齢期の不登校児童生徒等）による学び」とあります。

つまり、軽い言い方をすると、「ごちゃまぜの集団で学びましょう」というのがこのオープンダースクールの理念だったということです。

ですから、これを忘れてはいけないということで、私たちの理念の中にも実はそれが入ってしまっていて、もう1度、次のページ、32ページの【資料3－4】のリード文をご覧ください。

リード文のところ、1行目の最後に、「様々な学びを十分に享受できていない学齢期の子どもたちや外国籍・外国由来の人たち、十分に享受できなかった学齢経過者が集い」、ということで、簡単な書きぶりなのでなかなかそのニュアンスが伝わらないかもしれませんが、そういう集団で学ぶというのが、実は「軽井沢オープンダースクール（仮称）」の理念で、事

事務局としてはそういう理念でやってくということで進めていますので、そういう理念だということが忘れられてしまっているのかもしれないので、再度確認をさせていただきました。

ということで、【資料3－5】のところは、要は、一緒に学ぶという部分がこういう形になっているとご理解いただければと思います。

ただ、そうは言っても、学齢期の子どもたちを夜遅くまでいさせるというわけにはなかなかいかないですし、子どもたちが午前中から来たいと言ったときに来れるように、10時半から学校は開いていますよと。

そしてそこに、「マイタイム」ということで、もちろんこの名前は子どもたちの意見を聞きながら今後考えていきたいと思っていますし、今後事務局でも考えていきたいと思っていますが、言い方（呼び名）はとりあえずの言い方ですけど、「マイタイム」という時間を設けています。

その下に内容が書いてありますけれども、学校を居場所とできるような時間ということで。

そして、その次の14時15分からは「マイプランタイム」ということで、こちらも名前は仮称ですけども、これは居場所というよりも、自学自習というふうに学びができる時間ということで考えています。

こんな形で、学びの多様化学校コースと夜間中学コースの時間というものを考えました。

全部説明すると時間が押してしまいますので一部の説明とさせていただきますが、一番上に書いてありますように、この時間割で先生方が運用できるように、先生方の勤務というのは、長野県が導入している時差勤務とかフレックス勤務を取り入れながら、早番とか遅番にして先生方が対応できるようにするというのを事務局としては考えています。

こういった学びの中で、具体的には次の【資料3－6】が教育課程の概要となります。

学びの多様化学校は学齢期の子どもたちを対象とするわけですが、そこに黄色で「KODS」と書いたのが軽井沢オープンドアスクール（仮称）のことです。

総時数を770時間としていて、その770時間の中で、総合的な学習時間は「とことんクエストタイム」という名前をつけました。

その他にも、総時数を削った部分を他のもので補おうということで、「ヒューマンタイム」、「ネイチャータイム」、「表現タイム」というものを標記しています。

「ヒューマンタイム」は、下の説明にありますように、道徳とか社会、国語など、いうなれば人文科学系の時間です。

「ネイチャータイム」というのは数学、理科、技術、家庭というものの削減分を補完しているということで、自然科学みたいなものの時間です。

「表現タイム」というのは、音楽や美術、保健体育などの削減分の補完を想定している時間ということです。

これを年間で、どういうふうにやるかは今後考えていきたいと思います。

最後、【資料3－7】でありますけれども、これが学校の中の学習空間デザインということです。

教室の名前とかはもちろん今後また考えていきたいと思っていますけども、そこにある写真は、その上の（3）にありますように、いくつかの学校さんから許諾を受けてお借りしているものです。

「のびルーム」が授業で使う空間イメージで、それに対して「わいわいラボ」というのはくつろいだり、対話する場所、「シークレットベース」が1人でゆったりするための場所ということで、今の学校のイメージとは大きく違ってはいますが、こんなような空間デザインにしていきたいというふうに考えているところです。

説明が長くなって申し訳ありませんけれども、以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

ボリュームがありましたが、いかがでしょうか。

最初に、【資料3－1】から【資料3－4】ぐらいまでになりますけれども、この軽井沢オープンドアスクール（仮称）の会議体が設置する前の、長野県教育委員会を中心とした検討の内容が【資料3－3】に記載してあります。

こちらを踏まえつつ、【資料3－4】にあります、軽井沢オープンドアスクール（仮称）のスクールコンセプトを作り、そして【資料3－1】の設置場所について、教育委員会としては軽井沢高校を考えているという説明をいただきました。

また、この間ご質問いただいたことについては【資料3－2】へまとめさせていただいております。

いかがでしょうか。

では最初に、【A委員】からお願いできますでしょうか。

【A委員】

ご説明ありがとうございます。

非常に魅力のある学校ができるのではないかとすごく期待しています。

質問ですけれども、中高一貫型ということをおっしゃっていて、その中で連携型を目指していきたいということですが、連携型となると、例えば、この学びの多様化学校を卒業した生徒が高校に進学するとき、高校の受け皿はどういうクラスに行くのかということをお聞かせください。

普通科の、普通の教室に行けたらいいのですが、それがなかなか実際には難しい子どもがたくさんいると思うのです。

となると、高校の中に新たな、特別なコースを作るのかどうかということをお聞かせください。

それともう1点、分校型を目指しているということですが、本校型になんでできないのかということもお伺いしたいです。

もう1点だけいいですか。

給食です。

給食はなしということになっているみたいですが、子どもの中には給食だけが栄養源という子もいます。

だから、せつかく高校と連携してやるのであれば、高校の学食を使えないのでしょうか。

【B委員】

軽井沢高校には学食がありません。

【A委員】

ここには学食がないんですか。

今、私が関わっている三重（みえ四葉ヶ咲中学校）では、学食を実際に使って、希望制ですが月単位で希望して、そこへ（食べに）行っている子がいます。

三重の場合は、3部制の高校なので、昼間も夜も学食は空いています。

だから、そういうような工夫が何かできたらいいなと思いました。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

1つ目は、相手ありきの話ですが、高校進学後の彼ら彼女らの過ごし方について。

2つ目は、分校型・本校型の部分について。

3つ目は給食についてということで、事務局からお願いします。

【宮本教育長】

はい、私の方からご質問にお答えします。

まず、中高一貫にした場合に、高校での受け入れということなんですけども、これは私達の方から申し上げることではないんですけれども、軽井沢高校さんは単位制の高校です。

長野県の中でも全日制で単位制をこれほど導入している学校というのは唯一の学校であると思っています。

ですから、学びの多様化学校あるいは夜間中学のどちらでも、軽井沢オープンドアスクール（仮称）にいた子どもが、例えば軽井沢高校さんに進学したとしても、何か特別なものを用意しなくてもやっていけるんじゃないかというふうに今のところ想像しています。

また、お聞きすると、軽井沢高校さんにも、（小中学校で）不登校だった方もいらっしゃるということなので、特段そこは心配していない状態です。

2点目について、以前も【A委員】からご意見をいただきましたが、本校型にしない1つの理由としては、町として最終的にといいますか、目指すところは、「私たちの学校」づくりという形だからです。

要は、オープンドアスクールをつくるという側面と、既存の学校をより魅力的な場にして、不登校をできるだけ少なくしていきましようという両面を考えていますので、できるかどうかは本当にわかりませんが、最終的にオープンドアスクールも、学びの多様化学校コースがなくていいようにしていきたいというふうに考えていますので、そうしますと、新たな中学校を1つ作るということよりも、分校の方が適切ではないかというふうに考えています。

それと、3つ目の給食に関しては、今のところ学食がある学校が長野県はほとんどないので、給食に関してや、子どもたちの食べ物に関しては、これからも考えていきたいと思っていますので、何かいい方法があれば教えていただければと思います。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

【A委員】、今の回答を受けて、よろしいですか。

ちなみに、既存の教育支援センターを利用されている方も、お弁当を持参しています。

では、【C委員】、お願いします。

【C委員】

よろしくお願いします。

高校の施設を使うということで、メリット・デメリットを説明していただきましたけども、

ハード面以外に、ソフト面のメリット・デメリットがあると思います。

不登校の子たちは、とてもセンシティブで、ちょっとした言葉遣いや態度、目配りで、すぐ学校に来られなくなります。

つまり、既存の学校を使う怖さは、その学校の職員とか生徒とも交流や、接する場があるということなんです。

例えば、こんな話をするのは変なんですけど、今日（軽井沢高校へ）来て、入口がわからなかったの、立っている方に「入口はどこですか」と聞いたんですけど、こんな格好をしているからなのか、僕の勘違いかもしれませんが、結構ぞんざいな対応をされました。

「あっちの方だよ」みたいな。

外から来た子どもたちが、この学校にそんな先生はあまりいないと思うんですが、たまたま出会った学校の教員からぞんざいに対応されたりする危険性もあるということは十分にあり得るなと思いました。

それが原因で来られなくなるという危険性が。

だから、何を言いたいかということやはり、校長先生だけではなくて、このオープンドアスクールの存在や、どういう子が通ってきて、どういうことをするのかということを十分、高校の職員の方にも理解してもらって接してもらわないといけないんじゃないかと思いましたので、その辺の研修だとか、開校までの準備をお願いしたいと思いました。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

貴重な、リスクに対するご意見だと思います。

ありがとうございます。

では、【D委員】、いかがでしょうか。

【D委員】

【D委員】です。

とりあえず、2点あります。

最初の教育長のお話の中で、中高一貫にした場合の連携型は調査書を使わなくていいとおっしゃったのかなと思います。

このメリットのところを、もう1回聞きたいなと思いました。

調査書は使わないというお話ですが、入試で何か有利になるような流れがあったり、連携しているから基本的には中高一貫校のように、ある程度の中学の学業を納めていればこの高校に

入れるというふうに考えていいのか、それとも、やはり入試の壁は厚いのかというのがよくわからなかったのでお聞かせください。

それから、【資料3－5】を見たときに、全く想定してなかった時間配分で、これはどうやって通ってくるんだろうというふうに思ったんです。

川崎でもこの時期だと、17時くらいには真っ暗になってしまうんです。

中学校の不登校の子が来るとして、実質1時間目がこの時間から始まる場合に、送迎バスみたいな、ここまで来るバスが、「マイタイム」や「マイプランタイム」ぐらいから何本もでて、自分のペースで通ってこられて、そして、授業終わった後も、寒い真っ暗な冬の軽井沢を帰れるようなイメージになるのかというのを知りたいなと思いました。

僕は、もっと早い時間から（学校が）始まるものと思っていたので、イメージが湧かないでいます。

これは、通ってくるのに、親が送り迎えしなきゃいけないのではないかと考えたので、そこから辺を教えていただきたいと思います。

それと、「マイプランタイム」はあくまでも自習で、この時間から来ても、3，4時間目出なくていいというわけにはいかないということなのではないでしょうか。

14時15分から来て、自分で学んで、17時10分で帰りますみたいなことが可能だと考えられるのか、あくまでも授業は15時45分から始まるということなのか、そこをちょっと教えていただけたらと思います。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

では、【資料3－5】の内容にも入っていますけど、入試、特に調査書や学力検査の部分について、教育長から、高校業界の実態も踏まえてお伝えいただけたらと思います。

【宮本教育長】

はい。

連携型の中高一貫というのは、長野県にはないんですけども、全国にはいっぱいあって、いろんな形があります。

大体は、数校の中学校と高校1つが、場所もちろん違うところにあって、連携しているというものが多いです。

今回、ここでやるとなると、同じ敷地内にある連携型ということで、多分全国にない、初めての形になると思います。

入試は、基本的に学力検査がなく、調査書もなくっていいということで考えています。

どこの中高一貫校でもこういうふうに行っているということではないんですけども、1つの

事例としては、例えば、ある町の中学校と、同じ学区にある高校が連携型のときに、先ほどお話しした「軽井沢学」みたいな地域学習の探究活動をやって、その成果発表会をやる。

その発表会を、高校の先生たちが見て、そして面接だけして、原則全入というのが多分一般的な形だと思います。

ですから、基本的には一般に言う入試はないという形が連携型です。

連携している高校に行かない子は、他の高校の入試を受けるということになるので、その子たちはもちろん、調査書も学力検査も必要になってくるといことになります。

連携する学校に行く場合には、そういう形になります。

以上でよろしいでしょうか。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

以上が、現時点の町側の思いを含めた説明です。

基本的には設置者が別ですので、県教育委員会との交渉も当然必要となります。

まず1つ目の部分についてはご理解いただいたということによろしいでしょうか。

では、今【資料3-1】から【資料3-4】までの部分についてのご質問を承っていましたけれども、この部分についてほかにご質問ありますでしょうか。

この後に【資料3-5】以降の部分に進みたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、【E委員】お願いします。

【E委員】

はい。よろしくお願いします。

軽井沢オープンドアスクール（仮称）は、軽井沢高校の校舎を改築して使う方向性かなというふうに理解しています。

その上で、横浜市の栄区で令和8年1月に、横浜きりん学園という、私立の義務教育学校で学びの多様化学校が開校するということで、まだ工事中だったんですけども、校舎を見学させてもらいました。

横浜きりん学園の方も風越学園にきて、研修をして、少し建物の改築の参考にされたりというような交流があるんですけども、既存の中学校を改築して作った学びの多様化学校なので、建物は四角なんですけれども結構いろいろな工夫をされていて、改築によってここまで学びやすく、過ごしやすく、遊びやすくなるのかなというようなことを感じました。

機会がありましたら、それを見学に行っていただいても、参考にできる部分があるのではないかなと思っています。

カリキュラムの流れも、ちょっと朝遅くしたり、昼休みを 50 分間取っているとか、そういった部分も参考になるのかなというふうなことを感じました。

意見というか、感想ですけども、以上です。

【荒井座長】

はい。貴重な情報提供をありがとうございました。

【資料 3－4】 まではよろしいでしょうか。

はい、お願いします。

【F 委員】

はい。

学校の中に（軽井沢オープンダースクール(仮称)を）作っていくというなかで、やはり学校っぽくなることで、他の委員の方も話されたように、ここに来づらくなる、合わない子どもが出てくることが想像されます。

そういった場合に、合わない子どもを、どう 1 人残さずに学びに繋げていくのかという施策が重要になってくるのではないかと考えています。

そういった場合に、学びの多様化学校をつくと同時に、教育支援センターの連携であるとか、他の民間の場所とどう連携するのかという施策を含めて、学びの多様化学校をどうするのかということを考えていく必要があるのかなと思ったところが 1 つです。

もう 1 つは、ここ（軽井沢高校）に作るということを決めるのであれば、高校の方にも協力いただいて、学びを変えていくということと一緒にできればいいのではないかと考えています。

例えば、今、この話をしている中でもチャイムが流れていますけれども、そういったチャイムにドキッとする子どもがもしかしたらいるかもしれないので、そういった子どもの声を受けて、高校のチャイムを変えようとか、協力して何かできることがあればとは思いました。

感想ですが、以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

2 点いただきましたが、まず 1 点目の既存の教育支援センターとの連携について、事務局の考えがあればお聞かせください。

【宮本教育長】

もちろん、今でも町の教育支援センターとかに、多くのお子さんが来ています。

基本的には、教育支援センターも、これから作る学校（軽井沢オープンダースクール(仮称)）

も、来る先生は一応、県費の、正規の先生ですけれども、その先生たちだけで運営しているわけではないので、町の職員が関わったり、町の相談員が関わったり、支援が入ったりしますので、連携というのは元々出来るはずですし、連携するという前提でおりますので、そういったところは町としてもしっかり考えているということです。

よろしいでしょうか。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

今のご懸念は当然想定していると思います。

2点目について、【B委員】から、高校としての受け止めやご質問に対してコメントをいただけたらと思いますけど、いかがでしょうか。

【B委員】

はい。

高校ですけれども、本校の施設を使うという部分につきましては、職員会で校長としてはそういう方向性も校舎活用等で考えているということで話をしまして、特に職員の反対等はございませんでした。

設置が決まりましたら、高校としてももちろんできることは、職員と話し合いながらやらせていただきたいと思いますし、こちらの方（高校として）も時間をかけて検討させていただければと思っております。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

【D委員】は、【資料3-3】までのご質問よろしいですか。

では、お願いします。

【D委員】

はい。

私達は、川崎で、子ども夢パークというところを運営していて、ここにフリースペースえんという場所があります。

不登校の子どもたちが、小中学校あわせて120人ぐらい来ているんですけれども、発達障害などの診断名がついているのが5割近く来ています。

最近、子ども夢パークに、特別支援学校・支援級の子どもたちの遠足が相次いでいます。いろんな学校の支援級が、子どもたちをここで遊ばせてくださいと、夢パークにきて、ここでい

ろんな活動をさせてくださいと言ってくるんです。

水遊び、泥遊び、焚き火、木登り、工具を使う活動など、こういう環境が普通の学校の中でできないので、どうか子ども夢パークを使わせてくださいという声が次々に来るようになっていくんです。

なので、この間の会議（第4回設置準備会議）で私は、プレイパークのような遊びの空間を作ることができないのか、焚き火ができないのか、台所とかどうなのかということを質問したんです。子どもたちと話し合っていくというようなご説明だったか、方向性としては検討できるというお話だったか…。

今日、木村泰子先生はおられないですが、映画「みんなの学校」で描かれた子どもは、あの学校から飛び出していましたよね。

僕らのところも、めちゃくちゃ多動な子が来ているんです。

じっとしてられないし、暴言・暴力も出ちゃうし、走り回る子もいるんです。

その子たちがこの高校の中で走り回ったときに、他の学生がいる中で、どんな対応をされるのかが気になっています。

校舎を出ちゃいけませんよ、高校の校舎に行っちゃいけませんよ、みたいな「管理」という体制になるかというあたりのイメージがちょっと湧かないんです。

いろんな発達課題のある子が、多様な学びをできる「みんなの学校」づくりなのだろうと想像していたので、どこがオープンドアスクールの売りになるのかというあたりを、もうちょっと私達は突き詰めていかないと、何だか、ちゃんちゃんで終わってしまう感じがしています。

ちょっとイメージが湧きにくいので、もう少し教えていただけないでしょうか。

【荒井座長】

いかがでしょうか。

事務局の方からお願いします。

【宮本教育長】

そういった、前回会議でお話があったような中身については、必ずしも学校の中になくてもいいのではないかと考えています。

町の中にいろんな施設がありますので、必要に応じてそういったものを活用するとか、そういったことでも対応できます。

例えば、この敷地の中にそういった森がもちろんないので、その部分を使うということはもちろんできないんですけれども、町の中には様々にそういう活動ができる場所がありますので、そういったものを活用するという事で考えています。

それと、発達障害というか、個性のある子どもたちについて、人数が多くなるかならないかはちょっと開けてみないとわからない側面もありますし、そういった部分は、既存の小学校・中学校でも様々な形で対応していますので、そういった知見とか人の力を借りるとか、そういったもので対応していきたいと思っています。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

【D委員】

既存の学校で対応できないから不登校になっているんじゃないかと思うんですが、そこら辺の知見がどのように生かされていくのかというのは、この会議で、今後、より詰めていくことができるのか、もうあまり回数がない中で、どのような方向で検討をされていくのかという辺りを教えていただけるでしょうか

【荒井座長】

いかがでしょうか。

【宮本教育長】

具体的に、どういう子どもたちが、どういう活動をしているかということについては、町でしっかりと把握しております。

従って、その子どもたちにどのような対応をすればいいのかという部分について、例えばスクールサポーターを中心にして、町全体の中で、対応状況というのがありますので、そういった人たちと色々な協議をしながら、あるいは、行けてない子どもたちが、必ずしも（教室などを）飛び出しちゃう子どもでもない部分もありますし、そういった子どもたちがどのくらいいるのかということについてもある程度こちらの方で把握していますので、そういった部分に関して、もしかしたら足りないかもしれませんけども、町としては【D委員】が心配するところまでは、心配というとは変ですけども、してはいない側面もあります。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

【E委員】

どんな学校でも、外の環境って大事ななというふうに思っています。

今見て思ったのは、この（教室から見える中庭にある）使っていないアイスホッケーリンクのある場所も使えるなとか、（中庭に）ベンチとかも置いてあるなとか、グラウンドも広くて、グラウンドの一角もいろいろに使えるなと思いながら見ていました。

そういった使える場所とかを、せっかくだったら軽井沢高校のいろんな学びと絡めて、高校

生がこれからできる「軽井沢オープンドアスクール（仮称）」の子どもたちに向けて、どんな場所だといいかみみたいなプロジェクト的なものが動いていくといいのではないかと思います。

そうすると、実際に開校したときに、自分たちが作った場所や関わった場所があったり、もしくは入ってきた子たちと一緒に作ろうみたいな動きになっていき、交流もスムーズに進んだりとか、本当に1つのコミュニティになってくのではないかと思います。

教室の中の改築とか改装みたいな、室内の部分で子どもたちの力を借りるのは結構難しい部分があるかもしれませんが、外の部分というのは、せっかくの機会なので、色々と高校生の力も借りながら、そして入学してくる子どもたちの力も使いながら、借りながら行うというふうなプロジェクトの持ち方もあるのかなというふうに思いました。

感想です。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

ただいま様々なご意見をいただきました。

この後、校舎をご覧になられて確認いただく部分もあるかなと思いますけれども、【資料3－5】と【資料3－6】、【資料3－7】についてもご意見をいただきたいと思います。

冒頭、交通ルートや、バス利用に関するご質問等に対して事務局からご回答ください。

いかがでしょうか。

【宮本教育長】

交通手段について、中学生の多くは基本的には自転車とか、親の送迎、あるいは歩きでの移動をしています。

基本は歩きで、遠い子は自転車でもいいという形です。

町には、交通機関がそんなにないんです。

なので、夜になると、親御さんが送迎するという部分が中学校の場合にも多く、みんなどうにか通っています。

なかなか、そういう公共の交通機関がそんなにはないのが現状です。

【荒井座長】

はい。いかがでしょうか。

ちょっと難しい質問でもあります。

そもそも、そういった交通ルートがあるならば、今の状況になっていない可能性もありますので。

あとは、県外の方、あるいは軽井沢町外の方から見た視点と住まわれている方の感覚もまた違うかなと思います。

【資料3－5】、【資料3－6】、【資料3－7】について、残り時間45分ぐらいありますけれども、ご質問いただきたいと思います。

では、【D委員】からお願いします。

【D委員】

すいません。

さっき僕が聞いたのは、この時間帯での開校を想定してなかったためです。

結局、ここで働く先生方のシフトを回すために、こういう時間割の案が出ているのではないかというふうに思ってしまうんです。

子どもの最善の利益、ウェルビーイングの実現という点で、子どもが安心して安全で、ここに通ってきたい、学びの多様化学校として幸せだよという学校を目指すときに、本当にこれがそれを実現するための時間割になっているのかが疑問です。

夜間中学を併設するといっても、もう少し早い時間からスタートすることも可能だと思うが、そうすると高校の授業とのバッティングとかがあるからできないのか、これは単純に、先生のシフトを回すためにはこれでやるしかないということをご理解いただきたいというふうに受け止めた方がいいのか。

これ、子どもの最善の利益のためになっているとは、ちょっと私の中ではストンと落ちてこないで、ここら辺はどのようなお考えからこの時間割なのかということ、もう一度教えていただけないでしょうか。

【荒井座長】

はい。

では、いかがでしょうか、お願いします。

【宮本教育長】

はい。

まず、この学校を作るうえで、最初にお話ししたように、オープンドアスクールというものの理念があるということです。

（学びの多様化学校と夜間中学が共に学び、共に成長するという理念）

これがまず第1ですが、それ（学びの多様化学校と夜間中学の授業）を丸々かぶせると、（すべての時間が）夜の授業になってしまうので、それは無理ですと。

けれども、理念にも沿うために、早く来たい子は早く来られる、遅く来たい子は遅く来られ

るということを考えています。

左側の、学びの多様化学校コースの欄は10時半からということで、色が塗ってないので、あんまり意識にないと思うんですけども、ここからもう学校に来られるんです。

そして、子どもたちはそこで活動ができるんです。

要は、この時間から子どもたちの学びが始まっているんです。

一応、ここにはこういうふうに（時間割が）書いてありますけども、1時間目から4時間目までがっちりと、子どもに、今の既存の中学校のように「ここ（教室）にいなさい」と言っている時間ではないというふうに考えてもらった方がいいと思います。

つまり、1時間目、2時間目、3時間目と時間が書いてありますけども、子どもたちはそれぞれのペースでいろんなことをやっているんで、一応1時間目と書いてあるというふうに捉えていただければいいと思っています。

ですので、例えば子どもによっては、10時半に来て、「僕、もう帰る」と言って15時頃に帰っていく子ももちろんいるかもしれませんが、「僕はもうちょっと遅く来て、遅くまで居たい」という子は居てもいいですし、授業の中で「こんなのは嫌だ」といって寝転んでいる子もいるでしょうし、そういった中で、一応学校という形ですので、この形をとっているということでもあります。

子どもたちは、「ここからここまでいなきゃいけない」とか、「ここからここまでは授業ですから、教室から出てはいけません」とか、元々の発想から、そんなことはない学校ですので、そのように考えています。

10時半というところは、遅くもないと思うんです。

一般的な学びの多様化学校も、おおよそこのぐらいの時間から始まるというところが多いので、先生たちの勤務時間というのももちろんありますけども、それが元々の発想ではないです。

ただ、基本的には先生方の勤務時間を無視するわけにはいきませんし、先生方は正式な先生ですので、働き方改革もあるため、そういったことの中で柔軟に考えるとすればというところからきたものだというふうに考えていただければと思います。

【荒井座長】

はい。

【G委員】、お願いします。

【G委員】

時間に関して、これは子どもたちが何時ぐらいに来るのを想定されているのか教えてください

い。

この時間だと、(既存校の)他の子どもの下校と被らないのかというのが少し心配です。

マイタイムプラン①の前に来るか、もしくは1時間目がこの時間だったら、1時間目を目指してくるのかなというふうに思ったときに、他の中学校の下校と被ると来られない子も結構いると思うので、そのあたりがどうなのかというのを教えてください。

あと、休み時間がないのは、(授業を)自由に出入りしていいから作っていないのでしょうか。

全ての時間が、休み時間なく4コマ連続のカリキュラムになっているような気がするんですが、休み時間とかは必要ないのでしょうか。

休み時間を作るのであれば、現状のカリキュラムだと夜間中学と学びの多様化学校が被るのが、授業で被るぐらいなので、休み時間も被らせて、交流が生まれるような仕組みを作ったらいいんじゃないかと思っているので、その辺をどういうふうに考えているのか聞きたいです。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

一応、休憩時間を5分入れてありますけど、事務局から説明をお願いしますでしょうか。

【宮本教育長】

はい。

休み時間ですけれども、基本的には(授業中でも)休めますし、子どものペースで学ぶので、全体で休む時間がなくても、学びはできるというふうに考えています。

それと、通学の時間も、実態は子どもたちそれぞれになるんじゃないかなというふうに思っています。

一応想定では、10時半前は学校が開いてなくて、10時半以降だったら学校が開いているので、10時半に来る子もいれば15時45分(カリキュラムの1時間目の時間)から来る子もいるというように様々なので、もしも他の子と会いたくないという子は、会わない時間に来るといような形になるんじゃないかと思っています。

【荒井座長】

いかがでしょうか。

では、もう一度【G委員】、お願いいたします。

【G委員】

私は、休み時間があつた方がいいのではないかと思います。

別に、勉強しに来るだけではなくて、休み時間に遊ぶとか、外を駆け回るとか、そういう時

間があってもいいのかなと思っているので、そういう時間を検討いただきたいなというふうに思いました。

以上です。

【荒井座長】

ありがとうございます。

教育課程上、記載するか、要調整かと思います。

あと、この夜間中学コースの部分に関しては、何度も繰り返しになっていて恐縮ですが、そもそもオープンドアスクールの理念自体がハイブリッド型という点にあります。

今日後半でご説明いただきますが、この夜間中学の方々は、働かれている方という可能性もあり得るなかで、この 17 時 15 分という時間設定は結構ギリギリのラインだということも含みおきいただき、ご意見ください。

では、【A委員】をお願いします。

【A委員】

先ほど、【D委員】から、学びの多様化学校コースの授業終わりが遅いのではないかという意見があったのですが、この 3、4 時間目の（2つのコースが被る）時間帯というのは、軽井沢オープンドアスクール（仮称）ならではの交流が期待できる時間で、この学校の一番重要なコンセプトではないかなと思います。

だから、この時間を外して、早く帰ってしまうというのは非常にもったいないと思います。

確かに、18 時 40 分という、夜遅くはなりますが、その辺は親御さんにも協力していただきながら、ぜひとも参加してもらいたいと思っています。

私が勤めていた京都市立洛友中学校も、夜間部との交流ありきで、それが 1 番のコンセプトでしたから、やはり大事にしていた時間です。

だから、もう少し広げて言うと、今、軽井沢町内だけでの募集というように書いてありますが、できればこんなにいい学校ができるのであれば、隣接する市町村との覚書も交わしていただき、隣接市町村からの募集もしていただきたいと思います。

夜間中学も含めて、覚書を県が主導していただいて、広く募集してもらいたいと思います。

香川県の高瀬中学校は、香川県の西の端の学校ですが、学びの多様化学校の生徒が徳島から通っていた例もあります。

毎日親御さんが 1 時間かけて、車で送り迎えされていました。

子どもが勉強している間は、別室で読書をしていたりしながらずっと待っておられたという例もありますので、できるのであれば、もちろん、保護者の協力が必要だと思いますが、県外も含めて募集をかけていただけないでしょうか。

【荒井座長】

ありがとうございました。

夜間中学の部分に関しては、町外ということも想定していますので、【資料4】の部分で、少し説明いただこうかなと思っています。

その他、【資料3－5】～【資料3－7】についていかがでしょうか。

【F委員】

希望なんですけれども、3時間目、4時間目で、特に3時間目ぐらいから高校の部活に参加してみたいという中学生もいるのではないかと思います。

そのあたり、柔軟に授業を抜け出して参加ができるといいなと思いました。

高校ならではのこともなと思っています。

あと、先ほど、基本的には10時30分から開始ということでしたけれども、親の送迎で来る方が多いということを考えると、親が最近共働きということ踏まえ、早く子どもを送って来たいというニーズがあるのではないかなと思っています。

そうすると、親の働く時間に合わせてここに来ることも考えられます。

せっかくですので、高校に入れる図書館があるのであれば、そこで待機できるような形になると、保護者の方も助かるのではないかなと思いました。

あと1点、これは質問なんですけれども、軽井沢の駅からここまで来る場合は、子どもたちはどのようにしてくるのでしょうか。

バス等が走っているのでしょうか。それとも歩いてくるのでしょうか。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

まず、2点目に関しては、子どもたちの意見も踏まえて、状況に応じて善処するというふうな形になるとなっています。

3点目については、町内に駅がいくつかありますけれども、情報をいただければと思います。

【宮本教育長】

はい。

軽井沢高校は、中軽井沢駅と軽井沢駅のちょうど真ん中ぐらいにあります。

中軽井沢駅からは、2.4キロ。軽井沢駅からは2キロぐらいで、高校生の皆さんは、軽井沢駅から歩く生徒さんの方が多いです。

中軽井沢から歩いてくるお子さんもいらっしゃいます。

ということで、基本的にはみんな歩いて通学しているというところであります。

あとは、町の巡回バスがあります。

【F 委員】

冬場の暗い中、中学校 1 年生が歩いて帰るのは、ここ（軽井沢町）では問題ないという理解で大丈夫でしょうか。

【宮本教育長】

最近、クマの情報とかもあります。基本的に夜でも歩いて中学生は帰ります。送迎をしている家庭もありますけれども、それが普通です。

【F 委員】

わかりました。

あとは、なかなか外に出づらい不登校の子どもがそこを頑張って歩けるかどうかというところは、私は専門外なのでわからないんですけども、場合によっては電車の時間に合わせてスクールバスが走ると、過保護かもしれませんが、（不登校生徒が学校を）利用しやすいかなと思いました。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

【H 委員】

すいません。【F 委員】と少し被ってしまうんですが、現に不登校の子を持つ親として、この朝の登校時間は、母親とか父親は仕事に行っているんで、やはり町内の交通を使っただけの登校はちょっと厳しいのかなと思っています。

特に、うちの子の場合を見てみると、電車だったり、バスだったり1人で乗ることができないんです。

必ず親の送り迎えが必要になってくると、親の負担が大きくなってしまいますので、専用のバスを用意していただくとか、何か対応をしていただきたいなとすごく思います。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

【荒井座長】

では、【A委員】お願いします。

【A委員】

はい。

学びの多様化学校での一斉授業というのは、大変難しいと思います。

1つのことを理解するにも、人によってスピードとか道筋、方法もそれぞれに違います。

特に、学びの多様化学校では、夜間中学もそうですが、学習空白というのは、それぞれの人でまちまちです。

そのうえで一斉授業をするとすると、ニーズには答えられないと思います。

だから、できる限り自由進度学習を取り入れていくのが良い方法ではないかと思っています。

当然、一部、「ここは大事なところ、重要なところだから聞いておいてね」ということで、インストラクションは必要ですが、基本的にはそれぞれの生徒が、自分の学習計画を立てた中でやっていくのがいいのではないかと思います。

当然、先生のサポートが必要です。

自学自習ではなく、自由進度学習の中で計画を立てて、自分の学習空白を埋めるということも含めて、または自分の得意なところを伸ばしていくという学習をしていけるような方法をとっていく必要があるのではないかと思います。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

●（４）夜間中学について

【荒井座長】

今、ご質問・ご意見をいただきましたけど、【資料４】の説明をさせていただいた上で、残りの時間を使って、ご意見等をいただければというふうに思っています。

ページをめくっていただきまして、夜間中学の進捗状況を、事務局から説明をお願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい。ありがとうございます。

それでは、ページ番号 36 ページ【資料４】をお願いいたします。

夜間中学に関しまして、７月 14 日開催の第 3 回設置準備会議からこれまでの経過等につきまして、改めて説明をさせていただきます。

１ 計画予定として、（１）ニーズの把握について、夜間中学のニーズがあると想定される方とのつながりが想定される関係団体及び支援者の方や、スクールサポーターがこれまでに関わったことがある学齢経過者及び、夜間中学に関心のある方へのアンケート実施を 9 月末に一旦締め切り、不特定多数の方を対象として町の公共施設やホームページにて掲示、掲載をしこちらも 9 月末に締め切り、ニーズの把握を進める予定でございました。

２ 現在までの実施状況をご覧いただきたいと思います。

２ 現在までの実施状況から、５ スケジュールまでをまとめて説明いたします。

まず、7 月の会議終了後、特定の方および不特定多数の方へのニーズの把握に、事務局として努めてまいりました。

町内のあらゆる関係団体や代表者の方々に対して、「軽井沢オープンドアスクール（仮称）」とはそもそも何なのか、そして「夜間中学」については何なのかといったことを、これまでの町としての実施状況も含めて、直接、対面という形で説明をしてきました。

その中で、ご理解をいただき、町が進めるニーズの把握についてということでの協力を依頼させていただきました。

まず、直接そういった方々と対話をさせていただく中で感じたこととしましては、町としてはできる限り広報活動をしてきましたけれども、そもそも「軽井沢オープンドアスクール（仮称）」とは何か、「夜間中学」とは何かというような声が実際ありました。

そういったところより、皆様に対しての認知度が正直薄かったり、情報を届けたい方々へまだまだ行き届いていないということも事実ですし、夜間中学の設置を望んでいるであろう方の情報を掴むことの大変さを本当に実感しているところでございます。

広報活動という視点の中で、丁寧な説明を繰り返し、しっかりとこの事業の説明を行う必要があるのだということを、今まさに痛感している状況でございます。

今後も、こういった取り組みを継続して、時間をかけて、本当に親切丁寧に繰り返していく

ことが必要なのではないかというところもありつつ、そうは言っても時間も迫ってくる中で、もちろん運用してからの募集もあるんですけども、今できることとすれば、そういったスピード感を持ってやるということも大事だと、改めて感じている状況でございます。

当初の計画では、アンケートの途中経過を本日の会議で説明させていただく予定でした。

しかしながら、先ほど申し上げたとおり、直接の対面でいろいろ感じているところですが、やはり難しいという側面があります。

今後の残された会議の中で、改めて報告をさせていただければと思っております。

そして、先ほど【A委員】からもご発言ありましたとおり、近隣市町への呼びかけにつきまして、広域的な部分としての実施に向けて、他の自治体との連携についての協議を進めてまいりたいと思っております。

最後になりますけれども、6 現時点で対象者ということで、現状、前向きにご検討いただいている方が3名いらっしゃるという状況でございます。

引き続き、広報活動も含めた周知ということで、事務局としては取り組んでまいります。

以上となります。

よろしくお願いします。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

私からも【A委員】にお伺いしたいのですが、開校1年半前の時点で、設置するかどうかに関するニーズ調査を実施するパターンが多いと思うのですが、その段階での人数の見込みと、スタート時点での実態と、その後の展開ということについて、そもそもシミュレーションできるものであろうかということも含めて、ご意見いただけたらと思いますがいかがでしょうか。

【A委員】

全国の夜間中学でのニーズ調査と、開校してから実際に入学されてきた人たちのことを見ても、必ずしも一致はしていません。

つまり、ニーズ調査はしていますけれども、そのニーズ調査のときに「行きたい」と言って手をあげた人が必ず入学しているかと言ったらそうじゃないことも多いです。

それ以外の方（ニーズ調査では手を挙げていなかった方）が入ってきている場合も、結構あります。

今、お聞きしていて、まだまだ掘り起しが足りないなと思っていました。

掘り起こしというのは、アンケートを配って終わりではなくて、こうして、民生委員さんとかホテル旅館組合とかハローワークも含めて、行っているとは思いますが、もっと

地域の日本語教室とかも含めて、実際にそこに行って、その対象者であるかも知れない方々と話をし、また、その代表の方に実際をお願いをしてニーズ調査をやるということとか、それからこのアンケートについても、多言語でやってこられたかと思いますが、どこまでの多言語が必要かということも分析しなければならないと思いますし、ポスターも必要だと思います。とにかくアウトリーチで実施していかなければ、掘り起こしはできないと思います。

また、さらに努力していただければありがたいと思っています。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

本日の、教育課程の部分で、少し前の、ふわっとした夜間中学というものから、お出しする情報も少し可視化されてくるかと思うので、イメージできる可能性もあるかなと思いますけれども、引き続きこの3名の方に対するコミュニケーションをぜひお願いしたいと思っています。

では、残りの時間わずかになってまいりましたけれども、【資料3－1】から【資料3－7】、そして【資料4】を含めて、ご意見、ご質問をいただければと思います。

では、【D委員】からお願いします。

【D委員】

はい。

私も、35年前ぐらいから、松崎運之助（まつぎき みちのすけ）さんたちと夜間中学のことをいろいろ学んできて、夜間中学にも見学に行ったんですけども、社会のニーズが少しずつ変わってきているんじゃないかと思っています。

働いていて、この時間（日課の中で示している、夜間中学コースが始まる17時15分）に登校するのにギリギリだろうという人たちがいるというのが従来の夜間中学ですけど、夜間中学の募集について、夜間中学と言いながら昼間部定時制みたいに、学びの多様化学校のコースの時間にも夜間中学コース対象の高齢の方たちが来られるというふうな募集をかけていいんでしょうかという確認です。

つまり、夜間中学のニーズが、必ずしも昼間働いて、夜しか来られないという人たちだけではないのではないかと思っています、私も実際引きこもりの人たちが夜間中学に入ったのを何人も見てきています。

彼らに聞いてみると、昼間からやっている夜間中学があればいいのにと言っていましたから、夜間中学として募集をするんだけど、学びの多様化学校コースのやっている昼間の時間に、高齢の人たちが一緒に学べるっていうふうに考えていいのでしょうかというご質問です。

【荒井座長】

事務局の方、いかがでしょうか。

【宮本教育長】

その通りでいいと思います。

元々、オープンドアスクールの理念がそこにありますので、先ほど申し上げましたように、一応時間割があるんですけども、実態としては、お互いに乗り入れみたいな形の部分もあり得るというふうにこちらでは考えております。

【荒井座長】

ありがとうございます。

既卒者の方々にとっては、学びの多様化学校コース寄りのスケジューリングになってくる可能性はあるかなと思っております。

【I 委員】

【I 委員】です。

働く外国人の方から、日本語を学びたいという要件をいただいていたんですけども、この夜間中学だと、4時間（3～6時間目）は必ず出席しなければならないことになるのか、例えば、どうしても仕事の終わりが19時以降なので、部分的に参加することで、日本語を習得したいという方も受け入れてくださるのでしょうか。

【荒井座長】

いかがでしょうか。

【宮本教育長】

そういう方は、基本的にこの時間割はあるんですけども、お仕事の関係とかで出られない方は、途中から出ていただくことももちろん構いません。

ただ、卒業資格になりますと、やはりそれなりの時間はかかるということなので、資格を取りたいという方は、例えば4年、5年通っていただくとかということになると思いますし、日本語の学びの部分であれば、習得できれば修了というか、何ていうかわかりませんが、そういったことも可能であるというふうに考えていただければいいと思います。

【荒井座長】

ぜひ、その方に伝えていただければと思います。

他にはいかがでしょうか。

はい。ではお願いします。

【A 委員】

夜間中学の項目に、就学年限がまだ書かれていません。

今、長年通ってもらわなければいけないというようなお話も、教育長からありましたけれども、就学年限をどういうふうに設定するかということの検討が必要かと思います。

フレキシブルに考えるのであれば、実際に通学することはできないけれども学びたいという方もいらっしゃるので、例えば、オンラインで学ぶことが可能かどうかとも検討いただければと思います。

実際、熊本県ではオンライン授業をやっています。

ただし、オンライン授業をやっても、実際には対面が基本なので、オンライン参加の生徒は聴講生の形になっています。

例えば、3年、4年オンラインで授業を受けたとしても、中学校の卒業資格は得られないというような形でやっている夜間中学もあります。

だから、「就学年限」と、「通うことはできないけれども勉強はしたい」という方の扱いについて、今後、検討していただければありがたいと思っています。

【荒井座長】

ちなみに、三重（みえ四葉ヶ咲中学校）や三豊市（三豊中学校）のケースで言いますと、就学年限の設定はどのようになっていますか。

【A委員】

義務教育は、小学校・中学校ですが、小学校の学習内容も心もとない方もいらっしゃいます。

小学校から通えてない方も想定して、小学校6年間と、中学校3年間で、併せて9年というような設定を三豊や三重の場合はしております。

【荒井座長】

ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

ちなみに、教育課程に関しては、基本的に35週というふうな部分がありますので、35の区切りで考えることが多いです。

では、よろしいでしょうか。

一旦、ご意見をいただきまして、また事務局の方で個別に委員の方と連絡を取って、夜間中学のことも含めて、引き続き尽力していただきたいというふうに思っております。

●（５）その他について

【荒井座長】

（５）その他ということで、今後の部分も含めて説明をお願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

事務局です。

大変失礼いたしました。

（５）その他につきましては、特段ございません。

【荒井座長】

了解しました。

では、この後お時間許す方の見学等ありますので、５．その他ということで今後の会議の見直し等々も含めてご紹介いただければと思います。

お願いいたします。

●５．その他

【岩井こども教育課長】

荒井座長、委員の皆様、ありがとうございました。

５．その他について、事務局より説明いたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい。

それでは、資料の次第をお願いいたします。

次回、第６回設置準備会議となります。

年明けまして、令和８年１月２８日（水曜日）、時間は１５時から１７時ということで、こちらについては当初の予定通りとなります。

場所は、軽井沢町中央公民館で行います。

続きまして、第７回設置準備会議です。

令和８年３月５日（木曜日）です。

日程については、当初の計画と変更ございません。

ただ、事務局の都合で大変申し訳ございませんが、こちら当初の計画ですと１５時から１７時の予定とさせていただいたんですけれども、今回時間の変更ということで、１６時から１８時の２時間でご予定を調整いただければと思います。誠に申し訳ございません。

３月５日は、１６時から１８時ということで、場所は中央公民館での実施を予定しております。

また近くなりましたら、委員の皆様には出欠席の確認表と、あと一般の皆様におかれましても、ホームページ等で周知していきたいと思いますので、よろしくお願いします。
以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

では、今年度に関しては残り2回、ご予約いただけたらと思います。

それでは、第5回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を閉じさせていただきます。

この後のご案内も含めて、ご案内いただければと思いますので、事務局にお戻しいたします。
ご協力いただいてありがとうございました。

●6. 閉 会

【岩井こども教育課長】

以上をもちまして、第5回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を終了といたします。

皆様、長時間にわたりましてありがとうございました。